



二葉とこども

第31号



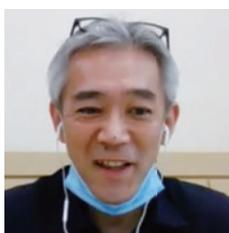
～キリスト教精神にもとづき、子どもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～

「これからの二葉を語る～保育編～」座談会

当法人では事業所毎に苦情解決・第三者委員を設置し、委員の方々には、苦情があった場合の対応にとどまらない活動を続けて頂いています。そこで、委員の方々の生の声をうかがい、昨年度の120周年に続く次の10年を展望する機会とするため、まず、法人内の二つの保育園(二葉南元保育園、二葉くすのき保育園)の委員の方々による座談会(各園に集まり、両園をウェブで繋ぐハイブリッド方式)を7月3日に開催しました。



南元・柴木淳子委員



くすのき・斎藤乾吾委員



くすのき・中島太味子委員



井上理事長(司会)：皆様、長く委員をお務め頂き、また、本日はお忙し中、お集まり頂き、本当にありがとうございます。最初に自己紹介と二葉との関係などについてお話しください。

南元・柴木委員：四谷第六小学校のスクールコーディネータやファミリー・サポートなど、子どもと関係の深い活動をしてこる中で、園と接点生まれ、委員を引受けることとなりました。私自身が生まれも育ちも信濃町で、地域の中にある保育園としてずっと応援してきています。

くすのき・斎藤委員：20歳になる息子が中島委員のお子さんと同じ年でもに卒園生です。私自身が、臨

床心理士として子どもに関する仕事をする中で、地域にくすのき保育園のような園があれば良いとの敬意を持ち、学んでいきたいとの思いで委員をお引き受けしました。

くすのき・中島委員：小学校の教員を長く務め、今はスクールサポータとして活動しています。2歳児の保育参観の折、自然に子どもの遊びを引出し、子ども同士のトラブルにも決して怒らず、言葉によるコミュニケーションで調整する保育の素晴らしさに触れ、委員として学びたいと思いました。

井上理事長：これまで両園とも個別の苦情対応は特になかったとのことですが、委員の方々にとどのような形で活動頂いているのでしょうか。

くすのき・森本園長：委員の氏名・連絡先を園内に表示し周知するとともに、保護者会にも出席頂き顔の見える関係づくりをしています。職員研修にも参加頂き、子ども一人ひとり、子どもの集団への接し方に関するアドバイスなど、職員集団への第三者・中立的立場からの御意見も大変貴重です。

南元・町田園長：保護者から悩みや苦情を受けた時に、相談に乗って頂くと、地域とのつながりの中で適切なアドバイスや時には厳しい意見をくださいます。保護者には園内に表示して周知していますが、コロナ問題





社会福祉法人二葉保育園
理事長 井上従子

二葉南元保育園
園長 町田とし江



二葉くすのぎ保育園
園長 森本裕美

を巡って保護者懇談会を開催した折に、保護者から「第三者委員に相談しようかと思っていた」との発言があり、何かの時に相談できる安心に繋がっていることを実感しました。

井上理事長：それでは、これまでの委員活動で印象的だったことなどお聞かせください。

中島委員：現場の保育士一人ひとりの個性を活かし、実践の中から課題を見つけ課題に対処していく中で、子どもとともに保育士が成長していく姿を感じます。子どもの保育については、一見するとバラバラなように見えても、発達段階に応じた系統的な保育で、一人ひとりを育てることによって集団を育てる一貫性があります。子どもが自分のやりたいことを自ら見出すという基礎を築き、着実に身に付いて卒園後の人生にも生かされていると、卒園生である娘と息子を見ても実感しています。

斎藤委員：利用者の権利擁護という高い公共性を担う役割に当初は戸惑いもありましたが、苦情など何か起きた時だけではなく、園を小さな社会として地域に開き発信していくことが重要と考えるようになりました。そのためには、「待ち」だけではなく、普段の様子、園内の子ども達の関係性などを中立的な立場から理解し応援していくことが、外部者が園に関与していく意味と考えています。

柴木委員：四谷第三小を仮園舎としていたとき、「苦情は沢山来るのか」と聞かれ、苦情解決委員という名

称がネガティブに感じました。大震災の後に、様々な不安への対応を巡って保護者と委員が緊急に何でも相談しあう集まりを持つなど、前向きな活動をしてきました。園の保護者や子ども達には、「大丈夫よ」「よくやっている」と励まし誉めて、おばあちゃん目線でサポートしています。

美智子様のお来園や愛子様のおデビューなども印象深いですが、クリスマス会などの行事や出産して戻ってくる保育士の方々の姿を通して、子どもにとっても保育者にとっても良いと感じています。

町田園長：前園長の時代から、震災や園舎建替えなど様々ありましたが、本日御欠席の小西委員、米澤委員を含む委員の方々が、保護者の立場も含む中立的視点からの適切な意見・アドバイスをくださり、乗り越えてこられたと感じています。

森本園長：父母の会の総会に同席され直接の保護者の声に接し、保護者に寄り添って頂いています。園だよりも執筆くださり、廊下の地域情報をキャッチして発信されるなど、園として大事にしていることへの行き届いた理解に感謝しています。

井上理事長：最後にこれからの両園や保育全般への期待などをお話いただけますでしょうか。

柴木委員：近年、新宿区内は子どもの大幅に増加していますが、コロナ問題で子育て中の親子の行き場がなく母親は疲弊しています。感染防止のため親子に声をかけることもままならず、親も「気を使う子育て」を

余儀なくされる大変な時代です。2歳児も自ら手を洗うなど、この一年で警戒感が高まっている中、保育園内が綺麗で、季節の花や実を目にすると、気持ち良く、ほっとします。また、家ではできないことも園では体験できることが今まで以上に重要になっていると思います。

斎藤委員：コロナストレスの中、子どものために我慢することは長続きしないと思います。保育士の皆さんが良いコンディションで仕事ができることが大事で、そのための環境づくりが望まれます。

中島委員：小学校入学時に支援シートを伴う子どもが年々増加しています。これまでの方法では解決できない課題を持つ子どもが増加しており、保護者も保育者も苦勞が大きくなっています。このような中で、困ったときにすぐに相談できる雰囲気や余裕を持って働ける環境が望まれます。

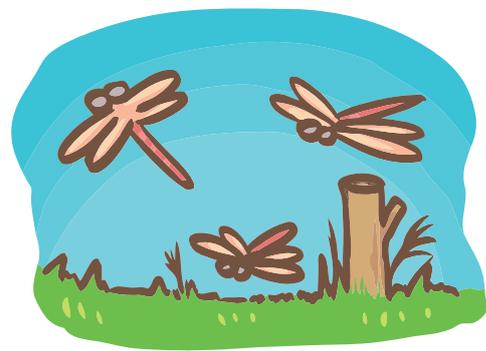
井上理事長：保育の専門性の向上のための研修などの重要性も一層高まっていますね。終わりに両園長から一言ずつお願いします。

町田園長：コロナ問題で行事の抑制などしてきてきた経験も踏まえ今後どうしていくかの岐路にあるように感じています。委員の方々の率直な御意見も頂き考えながら対応していきたいと思います。

森本園長：コロナの中でもできることを通じて、新たな発想で取り組んでいく集団でありたいと願っています。子ども・保護者双方からの前向きな視線を持てるようにしていきたいと思います。

井上理事長：本日は大変ありがとうございました。座談会を通じて、両園が大切にしてきたことを改めて共有することができたと感じています。また、「何かあった時」だけでなく日常的に両園を中立的立場から見守り、適時適切な助言や時には苦言も寄せてくださる苦情解決・第三者委員の御尽力は、両園がいずれも第三者評価受審結果で高評価を得られていることにも繋がっていると思います。

改めて御活動に深く感謝申し上げますとともに、今後ともどうかよろしく願いいたします。



ご都合により座談会に出席いただけなかった委員もメッセージをくださったので、掲載致します。



南元・小西 恵子 委員

以前、若葉三丁目の民生委員をしておりました頃、当時の町会長からのお話を受け二葉南元保育園の第三者委員の仕事に関わらせていただくことになりました。

コロナ渦中ですが、日々子どもたちや保護者の声に耳を傾けておられる先生方の「心」に少しでも寄り添い、お役にたつことがあれば今後も関わらせていただきたいと思います。



南元・米澤 瑛子 委員

二葉保育園が新宿駅南口にあった頃、勉強会に参加し歴史ある保育園の実践を先生方から学びました。そんな繋がりもあり公立保育園の園長職を辞任後に元園長の西村先生より依頼があり第三者委員を引き受けさせていただきました。保育園と係れる喜びでもあります。今後も保護者の喜び、悩み、苦勞に寄り添い、そして子どもの成長・未来と人権を守り育てる保育園であってほしいと願っております。

「息長く子どもと共に成長出来る職員に」

常務理事 武藤 素明

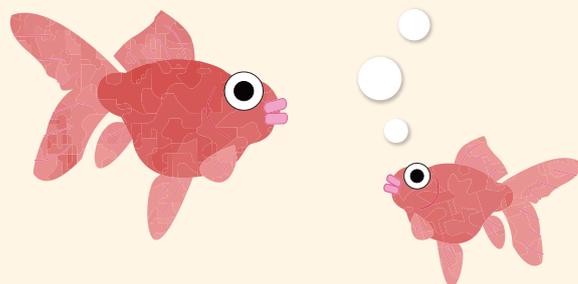
二葉には現在、全体で450名の児童に対し約350名の職員が働いています。乳児院では生後10日からの0歳から3歳くらいまでの乳幼児、保育所も0歳児から就学前児童をお預かりします。児童養護施設は3歳から18歳までの児童が入所してきます。また、自立援助ホームは15歳から20歳を超えての進学や就労支援を行っています。職員には「二葉で働くのであれば、どんな子どもでも何歳でも支援が出来るようになってほしい。そのために子どもの成長に長く関わってほしい」と入職の段階からお話しています。2、3年の経験では十分な子どもの支援は出来ません。また、より広範な知識とスキルが求められているところです。

法人として、「子どもの成長や安定には職員の成長と安定が欠かせない」をモットーとし、法人の中長期計画の最重点課題に「人財対策」を掲げ、「職員の人財確保、育成、定着策」に力をいれて取り組んでいるところです。「子どもに関わる仕事がしたい」とこれまでの二葉の保育や児童養護実践に共感し、毎年25名ほど※の職員が入職されています。

「子どもと関わる仕事がしたい」と二葉に入職した

のですから、保育や児童養護等の領域を超えて、息長く子どもと共に成長出来る職員であってほしいと、5年前から、法人内の6事業所間の人事異動を積極的な意図にて奨励しており、毎年数名の職員から希望があります。今回は、事業所間移動を経験して活躍中の皆さんの思いやメッセージを特集しました。

※ここ最近、児童養護施設の職員配置基準が改善され、より手厚い配置のための職員増を進めていることや、フォスタリング関係の事業拡充もあり、退職補充を大きく上回る採用人数となっています。



二葉むさしが丘学園

新たなる挑戦～人事異動を経験して～



「大丈夫、大丈夫、今までやって来た事と同じだから…できるよ」

と言われて、二葉乳児院から二葉むさしが丘学園に異動して来ました。

現在私は二葉むさしが丘学園で看護師として働いています。異動の話を受けた時、養護施設はどんなところ、大きい子どもたちとコミュニケーションができるのか、仕事の内容は乳児院とどう違うのか、どんな職員や子供たちがいるのか、など不安と心配でいっぱいでした。しかしそれと同時に乳児院で里親さんとの交流を通して、いつか里親支援の仕事がしたい、その為には乳幼児だけでなく、学童期、青年期の児童とも実際に関わり学びたいとの思いがありました。

また二葉むさしが丘学園のある小平市には元乳児院の院長先生のお墓があり、いつも見守って下さっていることも心の支えになりました。

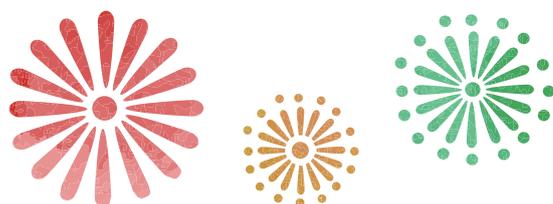
いざ異動してみると戸惑うことばかり、また看護師が一人なので重圧に押しつぶされそうになることもあ

りました。そんな時「ごはん行こう、旅行行こう」と誘ってくれて、笑いながら話を聞いてくれる仲間たちがいたのです。そんな仲間たちがいたから11年も働いてこられたのかなと思っています。

看護師業務以外にも幼児さんたちと老人ホームなどの地域交流に同行し、歌やダンスを披露したり、里親さんや他施設の職員に向けての講演をしたり、自分がやりたいと提案すればやらせてもらえるので、仕事の幅がどんどん広がります。

人事異動は生活も変わり、勇気も必要で、不安もいっぱいですが、新たなる場所を知り経験が出来たことは私の財産になりました。これからも仕事の幅を広げて、いつかは里親支援に携われる仕事に就けるように頑張っていきたいと思っています。

金子 恵子





私は二葉保育園に就職する以前は、国家試験での保育士資格取得を目指しながら認可外保育施設などで働いていました。資格が取れたらより福祉に力を入れているところに就職しようと決めていたので、資格を取ってすぐに二葉乳児院の面接を受けました

(ちょうど職員の空きがあってハローワークに求人が出ていたのも、今考えると運命的だったなと思います。)乳児院で5年ほど働いたころ、自分の健康などへの不安があったため夜勤のない保育園への異動希望を出し、お隣の南元保育園に来ました。

乳児院で働いた5年間を振り返ると、上司や先輩、同僚に恵まれ、子ども達との信頼関係や愛着関係を築いていくことへの喜びに溢れた5年間だったことが思い出されます。子ども達と、他の職員と、家族のように一緒に泣いたり笑ったりしてすごした時間が、今で

も私の宝物になっています。保育園に異動することが決まった時、どこか申し訳ない気持ちがあった私に、先輩や同僚からは「自分から環境を変える勇気があるのはすごい事」「いつでも戻っておいで」と言っただけ、院長先生からは「乳児院と保育園の架け橋になっておいで」と励まされ、とても心強い気持ちで前に進むことが出来ました。

保育園での仕事は7年目になりますが、乳児院での経験を活かし主に乳児クラスを担当しています。新しい環境に慣れるまでは大変な事もありましたが、現在は、他の職員、保護者、子ども達とも良い関係を築くことが出来、充実した毎日を送っています。

あの時、勇気を出して人事異動を申し出て、それを快く受け入れてもらえたことで今日の私がここにいられると思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの二葉保育園の一員として子ども達のために精一杯頑張っていきたいです。

山口 真紀

トリノス

法人内異動と新規事業の立ち上げを経験して



私は5年程前に同法人内の児童養護施設二葉むさしが丘学園から、平成28年4月に新規開設となった自立援助ホーム「トリノス」へ異動しました。二葉むさしが丘学園では、児童指導員として子どもたちの生活の場である寮舎に入り、日々の子どもの日常生活の支援をしていました。当時は新卒であったこともあり右も左も分からない状態でしたが、日々の子どもの生活の中で忙しくも、とてもやりがいのあ

る日々を過ごしておりました。そのような日々の中、私が職員になり3年目の春過ぎごろの職員会議で、新規開設する施設への異動希望の確認があったことが一つのキッカケとなり現在のトリノスへ異動することとなりました。当時はまだ3年目ということもあり異動についてはほとんど頭にはありませんでした。しかしその様な中で、新規事業の立ち上げという話を聞き、今後の自分の指導員人生の中で施設の立ち上げに携わる機会が果たしてあるのかと考えた時、これは大きなチャンスだとも思いました。正直異動を決めるまでは沢山の葛藤があり、今このタイミングで寮舎を離れることで他の職員に迷惑をかけてしまうのではないかと、無責任な選択なのではないかと自問自答することもありました。ただ、その正直な

思いを寮舎の諸先輩方に素直に相談したところ、「興味があるなら気にせずに挑戦しなさい」と背中を押され異動することを決めました。

私の場合は、このように周りの協力や、応援があって法人内異動をすることが出来ましたが、立場やおかれている環境によってはそれが難しい選択になってしまうことも現実には起こりうるのではないかと思います。今後、法人として法人内異動を進めていくのであれば、事業所ごとや法人全体として法人内異動が寛容されるような雰囲気作りや環境整備が必要になってくるのではないかと思います。私自身としては法人内異動をしたことで、本当に様々なことを経験することが出来ました。もちろん同じ事業所で長く続けていくことで見えてくることや、学ぶことも多々あると思います。ただ、それと同じように法人内異動を通してではできない経験や、得られるものも多々あるのだと実感しています。

今後まだまだ法人として、整備していかなければならないことが多々あるとは思いますが、私個人としては、積極的な法人内異動を促進し、事業所間同士の相互理解のキッカケや、福祉で働く人間の人材流出の抑制及び人材確保の一環として職員それぞれの事情に応じた柔軟な職場環境の確保が今後の福祉を支えていくうえでとても大切な要素となってくるのではないかと思います。

宮崎 澄人

私は、多摩児童相談所フォスタリング機関二葉学園で里親トレーナーとして令和2年10月より勤務しております。二葉学園には二葉乳児院から異動させていただきました。そして遡れば、くすのき保育園から二葉乳児院への再就職もあり、フラフラとお恥ずかしい限りです。

保育士としてくすのき保育園へ入社し、子どもたちや、親御さんへの丁寧なアプローチ、保育環境の大切さ、乳幼児期の大人の関わり方を先輩方から学び、保育園での保育を通して、乳児保育についての学びを深めたいとの思いから乳児院へ再就職させていただきました。《この後に数行足される予定です》

乳児院は安心安全な環境で愛し愛されて育つ場所であることや、専門職同士が連携しチームで養育していく場であることを知りました。そして、チームの助けがあったからこそ、様々な背景のある子どもたちの養育に真摯に向き合い子どもたちと共に育ち合う日々を過ごすことができました。

里親さんとの出会いはその中でありました。マッチングから委託後まで携わるなかで、苦労はされながらも家族になる過程を目の当たりにして、里親さんには感謝しかありません。私には愛着のバトンを引き継いだ安堵感がありますが、里親さんは日々の養育、真実告知や成長と共に訪れる子どもの変化に日々向き合い続けております。そのような場面での支援について考

えるようになり、里親支援への異動について考えるようになりました。年度途中の異動について迷いましたが、乳児院の方々には快く背中を押していただき感謝しております。

二葉学園に異動したことで間接的にはありますが、小中高生の子どもたちの様子を知り、里親家庭で成長する子どもたちに必要な養育について学ぶ機会を得ています。子どもたちの未来のために、色々な立場から支援出来る環境に日々感謝しています。

最後に、乳児院で子どもたちにゆっくり成長しているよ。と何度となく語り掛けていたことがあります。職場異動を繰り返している私は、急いで色々学ばないといけない身ですが、こんな風に思われてたら頑張れますと思いを込めて

“ゆるりゆるりと”

井原 紗綾



業務では「さとぺん」(東京都の里親マスコット)に扮することもあります



時代はバブル期。その頃のファッションといえば、原色や派手な柄の肩パッド入りのジャケットにタイトスカート。当時25歳だった私も時流に乗り、白の上下のいで立ちで二葉乳児院の門をたたいたのでした。振り返ればここは、絶え間なく続く人生

修行の場だと気が付きます。あれから30年。飽きっぽい私が長く勤められている理由の一つは、法人の基本理念にあります。「その時代に必要なことを取り組む。」この原点があることで、自分に与えられた様々な場面での悩みや迷いがでた時も、解決の糸口を見つけては前進してきました。

乳児院から自立援助ホームトリノスへ異動する時も即断でした。その時、養育主任でしたが、世代交代の時期だと思っていましたし、自立援助ホームの役割は時代に必要だと大きく心が動き、立ち上げメンバー募集に手をあげました。パソコンも料理も支援も1年生

でしたので、一緒に過ごした職員利用者さんにとっては、手のかかる迷惑なおばちゃんだったと思います。でも、私にとっては、刺激的で興味深く支援者としても人としても学び多き2年間でした。

トリノスが軌道に乗り始め、立ち上げメンバーの役割も終わったなと思っていた頃、東京都の新生児委託モデル事業が開始されていることを知りました。『痛ましくも毎年0歳0ヶ月の命が亡くなっている。0歳0ヶ月の命を守りたい』という思いからスタートしたとお聞きし、必要な事業だとこれもまた大きく心が動いて乳児院へ異動しました。以前とは違う業務の1年生です。里親子さんが家族になっていくお手伝いは感動の連続でした。

そんな矢先に卵巣癌がみつきり1年間の闘病生活を体験しました。生かされた命の活かし方も1年生です。人と関わる仕事も毎日が1年生の気分です。揺るがない原点に戻りながら出会いを大切に歩き続けられていることはとても幸せです。

三浦 淳子

ご寄付をお寄せ下さった皆様（敬称略）

愛知 芙美子	太田 清子	川崎 浩子	鈴木 浩之	野津手 真理子	武藤 素明
秋山 和郎	大野 恵子	河津 英彦	鈴木 伶子	麦 裕美	馬上 英実
阿部 久美子	大橋 しのぶ	乾川 日出夫	関 幸子	橋口 英二郎	元橋 三千代
阿部 幸正	岡崎 瑠美子	木勢 敏子	関沼 幸通	橋本 康彦	本橋 裕子
甘糟 成美	岡原 初枝	北澤 順一	高橋 和代	羽田野 恵美子	本村 浩輔
網野 武博	奥野 弘史	木村 孝子	竹内 よし子	羽仁 昌子・カンタ	百々 典子
荒井 和也	奥山 明彦	金城 清志	武田 康男	林 伸子	谷中 信一
生田 麻莉	尾崎 百合子	工藤 ルリ子	多田 一江	東山 靖子	八幡 則子
井口 治彦・早苗	押切 重洋	熊澤 桂子	田村 幸子	藤澤 綾子	山口 顕治
磯部 日出夫	小野 雄一郎	向當 稔	丹井 逸子	藤林 はる子	山田 琢史
伊東 明子	垣内 国光	小西 純	丹沢 美智子	藤原 誠	山田 美和子
伊藤 陽子	笠原 勝子	強瀬 順子	戸島 陽平	程塚 重雄	山田 洋子
井上 収之	片倉 昭子	坂倉 綾子	富田 護	真壁 泰子	山本 利彦
入江 麻理子	片山 雅子	坂本 和子	中島 太味子	牧 甫	吉澤 貞雄
岩佐 明博	加藤 公子	佐藤 征雄	永田 士郎	馬見塚 統子	吉田 恒雄
岩本 和雄・隆子	加藤 貴行	佐藤 喜延	中野 恵成	三木 英一	四ヶ所 大亮
植山 洋子	金子 恵美	穴戸 健夫	永野 義博	ミタチ マミ	脇田 慎司
鷓沢 誠	金田 安夫	島 京子	中村 恵子	宮沢 成美	
内田 和子	唐川 文成	清水 真一	西村 道子	宮本 泉	
宇都 栄子	川北 真梨乃	下平 健嗣	西本 知代	冥賀 令	
遠藤 久江	川久保 美和子	菅原 友香	野澤 理子	向當 君枝	

株式会社クロッシング・フォーラム

学校法人 女子学院

日本キリスト教団東中野教会 代表役員 浦上 充

日本キリスト教団 東中野協会 教会員有志担当 井上 喜晴

株式会社東海リライアンス 代表取締役 中島 弘人

一般社団法人日中一带一路促進会 理事長 高邑 勉

2020年度二葉支援の会に寄せられた寄付についてのご報告

二葉支援の会では、平成29年度から「二葉を巣立った人たちへの自立支援」に力を入れていくという目標を掲げてまいりました。この目標にご理解・ご賛同くださった皆様から、2020年度はコロナ禍にもかかわらず、総額3,630,001円ものご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

2020年度は、二葉を巣立った人たちへの自立支援として、自立支援・アフターケア基金による支援の件数が多い年度であることが懸念されましたが、483,974円の支援額にとどまり、3名の卒園生を支援することができました。生活資金やお子さんの入学費用等の給付でした。コロナ禍が続く中で公的支援の期限もあるため、今後、自立支援・アフターケア基金による支援の増加が予測されます。どなた様も大変な状況な中で、重ねてのお願いを申し上げるのは本当に心苦しい限りですが、引き続きご支援をお願いできれば幸いです。

最後になりましたが、上記の皆様から2020年度（2020年4月～2021年3月）にご支援をいただきました。お名前を掲載し、感謝をもって報告いたします。また、消毒用アルコールなど有難い現物寄付をくださった方々にも改めて厚く、御礼申し上げます。

社会福祉法人二葉保育園 法人事務局

「三葉支援の会」への寄付について

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動を行っています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」 お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 **03-3341-1205** (平日10時~17時)

E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

郵便振替

口座番号：00120-2-30321
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込

三菱UFJ銀行 支店名：四谷支店
口座番号：普通0506208
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 井上従子

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。



社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
設立：1900年(明治33年)
理事長：井上 従子
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、町田 とし江
評議員：宮沢 成実、磯谷 文明、吉村 晴美、金子 恵美、潮谷 恵美、貫名 通生、浦上 充、竹内 よし子、橋本 ゆかり
監事：園 武友、馬場 充
職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長 都留 和光
児童定員：40名 職員：114名
所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要
児童定員：52名(グループホーム8ヶ所を含む)
職員：84名
所在地：本園 〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7

二葉南元保育園

園長：町田 とし江
児童定員：110名 専門型一時保育：10名 職員：52名
所在地：本園 〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美
児童定員：100名 職員：39名
所在地：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

二葉むさしが丘学園

統括園長：武藤 素明 園長：菅原 淳史
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む)
グループホーム：18名、職員：65名
ファミリーホーム：6名、職員：2名
所在地：本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

自立援助ホーム トリノス

ホーム長：渡辺 剛史
児童定員(男子)：6名 職員：4名
所在地：東京都日野市
(成人を含む利用者の住所地となっているため非公開)

二葉とこども31号 2021年 9月1日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <http://www.futaba-yuka.or.jp>